



假面劇

祭の道には興行物は嚴禁

十一月三日は明治神宮の大祭日で我國中興の明治年間に於ての天長節が偲ばれて拂身を淨めて家を出て原宿の表參道を徘徊して街路樹の落葉を踏みながら、我國興隆の蹟を追憶しつゝを徐ろに神橋を渡り絡繹の蹟を接する参拜者に伍して歩を進めた、すると此大群衆の一部がビタリと停止した、スワ何事ならんかと前方を見れば金色燦爛たる大禮服裝の十數人一行の來るので見れば岡田内閣總理大臣次で後藤内務大臣内田鐵道大臣松田文部大臣の閣臣香坂東京府知

事貴族院議員田澤義輔氏等の歴々が拜を終つて退出する所であつた、綠の樹立の下小砂利の清掃せられた森嚴なる處で此一行は執れも謹嚴な態度であつた、さもあるべき筋である、其一行を見送りにて青竹の長く渡された樋に穿たれ小孔から流れ出づる淨水で嗽ぎ手を淨めて拜殿の階下にうや／＼しく敬禮して退出す、路上の砂利さへ見得ぬ程の群集に混じ神橋を右にすれば、こはそも何事か、銅鑼が鳴る、大鼓が鳴る笛が鳴る、耳も聾せんばかりの驟然たる場所である、夫れは實に嘔吐を催す野鄙な御祭騒ぎである、所謂御祭騒ぎは燥狂的な輕佻淺薄な卑俗なもので之れに接する時に敬虔な嚴肅な精神が冒瀆せらるるを覺ゆるものであ

注 本欄は讀者諸氏の利用に提供す、治安と風俗とを害し又は人身攻撃に涉らざる限り奇想天外的の寄稿を望む、一文は四百字位にて取捨は編輯子に一任、原稿は道路の改良編輯部宛のこと。

る、鎮守の祭事とは大に異ならしめざるを得ない明治神宮祭に際し如此興行物等を神宮附近にあらしむることは甚しき曲事であると思ふ、爾後斷じて如此ものを嚴禁して以て我國民の嚴肅敬虔な精神を向上せしめんことを切望する。仍て神宮當局に此の警告を呈する、(一一、三、白洋生)

強制斷種の道

精神異常者中遺傳性疾患と認めらるるものを調査すると躁鬱病二六・四ヒステリー及病的性格四・五早發性痴呆症三六・四合計六七・三パーセント又感化院收容不良少年中遺傳と認められるものは低腦性不良少年九三、變質性不良少年九五、普通不良七

五パーセントで斯る遺傳性に依る低能と精神病者は惡質の遺傳であるから優生保存上此等の患者に對して強制斷種の手段を執らねばならぬとの運動が起り現に獨乙ではナチス治世となつて本年一月一日から實行して居る又アメリカのカリフォルニア州では早くから實行して居るとの事である、此斷種運動の研究家は内務省衛生局技師醫學博士青木延春氏である、同博士の説に依ると

精神病の中遺傳性疾患と認めらるるものは躁鬱病、早發性痴呆、癲癇性精神病、ヒステリー、病的性格等で精神病患者數の約七十パーセントであるとのことである尙安部磯雄氏は此運動は理論時代でなく實行の時代と言はれ且優生學の立場から「十數年前私達は平塚明子さん達と新婦人協會で花柳病男子の結婚禁止運動を起したことである」と述べられて居る。教育方面ではロボット工作を施し學界では科學萬能宗教無力を唱へるかと思へば人爲的優生保存の方案が唱へらるる時代である。だが人間は文化の發

達に従ひ反比例的に其精神的惡質が増長するかに思はるので人類の未來は悲觀せざるを得ない感がする。幸に人爲的工作で優生保存が成熟すれば幸である、とは言へ現代に於てヒステリー症女子が斷種せられ、花柳病男子が結婚を禁止せらるることとなつたなら殘る所の優生保存上の適種たる男女の數、幾何なるか心細いことでゐる。

(一一一、一、城南子)

街頭の秋

昨夜の嵐は今朝やんで澄みきつた天ではないが刷毛ではいた様な雲が散らばつて雲の間から紺青の空がはてしもない深さを以て覗いて居る。アスファルト舗装を施したペープメントをポツリ／＼と漫歩した、夜半の嵐に吹き落された街路樹の葉がカサコソと縁芝に添ふて揺曳し、あるは離れまた接し、そぞろに秋の寂寞を感じ人生のはかなさを胸中に去來せしめられた。更らに宇宙間の森羅萬象の盛衰生滅の有様を見るに

自らの力を持つむことの餘りに大なるが爲めに却て自滅したカミソリ豹の如きものがあつた、此は自分の武器で亡んだのである、又全く武器なき爲めに滅亡したデスマスチルスがある之れは百萬年前に我地球に住んだ珍獸で長尾北大理學部長の説明によると頭が長く二尺五、六寸位、首は極く短かく、胴は肥つてゐて長さ九尺位、これにお印し位の尾があつて脚は短かく太く二尺五寸位しかないといふから珍妙な格好のものに相違ない、大きな齒が上下八個づつそれに下二對、上一對の牙をもち下の一對は長く前方に突き出て更に上物は嘴のやうに延びておつたものだ、なる程こんな攻撃的武器をもたないのみか無防備な動物では優勝劣敗適種生存の理論上永く生存する資格は缺けて居る。武器があつても亡び、武器がなくとも滅すると思ひながら、何時とはなしに自分の職場にたどり着いた、右往左往する街頭でも秋はさびしい。

(一一一、五、婦美榮)

女を護る公營バス

嬢の抗争

某市營バス女車掌八百名が一、某市電氣局は女子従業員の貞操を保障すること、バス監督某の即時解雇三、擔當市助役の引責辭職を要求箇條として勇ましい抗争を提唱するに至つたと傳へられて居る、事件の發端は數人の女車掌が宿泊したる場所に市バス監督某が夜中忍び入つて彼女等の貞操を蹂躪せんとした行爲があつたので彼女達は市廳舎に擔當助役を訪問し其不法行爲者を處分せんことを求めたが其助役は陳情者たる彼女達を揶揄嘲弄したとの事で同業組合の應援を求めて斯くは要求運動を爲すこととなつた且此要求貫徹の爲女子従業員父兄會を組織したと實に之れなるかなである生活の第一線に雄々しくも立働く彼女達に對し不倫行爲を加ふるが如き姦惡の徒輩に對しては嚴正な制裁を加ふべきである。と

にかく婦女女子を玩弄し從物視し以て快哉を感ずる男子は今日我國に於て花柳病患者の多きが如くあるのである、獨立的經濟權を獲得せんが爲めでなくとも家庭關係から餘儀なく職場に其姿を現はしておる青年女子に對しては男子としては之を保護し援助して以て安心して其職業に従はしめねばならぬ、やれ國民の更生だの統後の活動だの家庭の淨化だのと騒いだ所で夫れは空騒に終るのである、四海平等だの階級無差別だのと謂つたから國民が更新するのではない、母性愛とて之を賞揚したのだから其論者が家庭に在つて正義道德の士かと云ふことは出來ない、苟も國民の半分を占めておる女子に對して千考も萬考もしてもらひたい。

(一一、一五、美南子)

街道の安全施設

交通標識の施設と循環式交通整理とは輒近非常に普及し、また世の注意をひく處であるが其利害得失に至つては之を批判する

資格を有する者極めて少ないのである、例へば標識にした處が内廻りの自轉車や自動車のストップなしの急カーブ走行には歩行者は甚しくおびやかさるのである、又循環式整理方では馬場先門の實驗の場合に吾人は歩行者の横斷箇所が中心地線から餘りに遠方に在ることに依つて頗る惱まされたことである、而かも路線の中央に電車が運轉されておるので一段の不安を感じる處が少なくなかつた。都市工學社發行十月號エングニアを見ると東京市土木局道路管理課第二修繕係長高橋猛夫氏も横斷歩、街路中心線並疾行車緩行車區分線、安全島の各事項に分ち交通標識施設に就いてと題して論述する一文があるが一讀頗る理解を興へられた、だが矢張交通量の過多な場所では歩行者の爲地下道を設けることの必要を感ぜしめらるる、又同雜誌に内務省都市計畫東京地方委員會肥田木誠介氏が循環式交通整試験と題する一文を載せられて居る、之れも頗る有益な記述であるが未完なるが故

に吾人の不審に屬する處を説明せらるる處があるか否や後日に俟つの外はない、要は此種の研究が不絶發表せられ吾人の實生活に即する問題が解説せらるることは大に歡迎する處である。(一一、二〇、城南子)

國策の所在地點？

曩に政友會總裁鈴木喜三郎氏は政友會北信大會での演説中に「立憲政治においては政策の所在が内閣であり、その政策が國民の信頼を裏切りたるときは潔く責任を取る事が常道である、然るに岡田内閣が全く何等の政策を有せざることば組閣の當時に於て首相自ら之を言明して居る云々」又「今日の國政運用には政黨は尤も重要な機關である、殊に現在の如き國家の難局に當つては政黨に基礎を有するに非ずんば強力なる政治の實現は困難である云々」とあるが果して斯くの如き演説をなされたことであらうか、内閣を組織する國務大臣は天皇を輔弼し其の責に任ずると憲法に規定せられ

である以上は最善の力即ち全神全力を盡して國策を樹立し、憲法の定むる所に依り帝國議會の協賛を求めて執行すべき職責を有するから帝國議會の開會を俟て國策の協賛を求むるの外はない、當時國策案を國民に豫告して其信任を國民全體に問ふべきものでないことは三尺の童子も尙よく之を知る、然るに現内閣に國策ありやなしや未だ明白にすべき時機の到來せざるに大政黨の總裁が恰かも現内閣に國策なきが如く吹聴するは如何のものか輕佻な言動ではあるまいか又政黨は重要な機關であると述べて居るは政治論として敢て過言とは謂はないが一般の國民が何にも信頼することを得ない政黨に重要な國策を樹立すべきの政權を與へてよいきか否や之亦未成年者といへども明答し得る處である、政黨の首腦者は徒らに政權獲得の意識のみに依つて其言動をとるべきものでない三省も四省もしてもらいたい。(一一、二〇北濱生)

勞働時間の長短

星を戴いて出て星を踏んで歸るとは農業者の勤勞時の長きと其勞力を惜みなく費やす状態を言ひ現はした言葉であつて昔の百姓は未明に起きて田畝に出て、日暮れて後鋤犁を手にして家に歸つたものだ。然るに社會の文化の進歩に隨ひ勞働時間の長を論じて八時間勞働を唱へ六時間勤務を論じて勞働時間は漸く短縮されるに到つた、農業も亦工業と異なる所なく資本化し行くに従ひ直接農事に従ふ自作者小作人共其勞働時間の短きを計るに至つて星を戴いて出て星を踏んで歸り而て深夜まで副業に従事するのは時代離れの甚しきものであると思惟してまた昔日の如き勤勞を好まなくなつた。さらでだに農業は其利潤の少なきものであるのに更らに勞務時間の短縮は益々農業を不利に導くこととなつた。農業の行詰りは當然の歸結である。「鹿兒島縣農會の調査参照」一一、二五陸稻生)